

成長を支える基盤

品質

目指す姿

三和グループは、世界中のお客様に安全・安心・快適な商品とサービスを届けることで、人々の大切な暮らしを守り、より豊かで便利な社会の実現を目指します。

成長へのつながり

常に世界のお客様からのニーズと期待に応え、信頼を積み重ねます。市場そして社会から選ばれ続ける存在になることで、持続的な成長を実現します。

1

2015年度 性能試験センター
総受託試験数

432件

2

2015年度
施工技術者数

約3,200名

品質保証体制

三和グループにとって、安全品質の徹底は最大の責務です。グループ全体の安全品質の保証を担う機能として、グループCSR推進会議を設置するなど、継続的に品質保証体制の整備を図るほか、主要グループ会社ではISO 9001（品質保証の国際規格）を取得し、品質の安定に向けた取り組みを行っています。

性能試験センターの活用 1

最新鋭の設備を有する性能試験センターでは、試験所の技術能力を証明する国際規格「ISO / IEC 17025」を取得。



性能試験センター全景

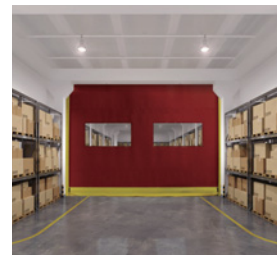


防耐火試験装置

三和グループの製品や国内外の調達品についても試験を受託し、品質、性能、安全性の評価および製造技術などの評価を担っています。また、外部企業、官庁、業界団体の見学や新人研修の受け入れも実施しています（2015年度は636名）。

グローバルベースの商品開発

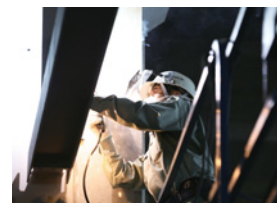
三和グループでは、グローバルなネットワークを最大限活用し、グループ間でのシナジー創出に取り組んでいます。グローバルベースでの商品開発にも取り組んでおり、2015年度はNFの高速シートシャッターの技術をベースにODCで開発した高機能シャッターを発売しました。



高機能シャッター
「Rapid Flex」

施工力・サービス力の強化 2

シャッターやドアなどの動く建材の施工・サービスを行うことの多い日本では、施工力やメンテナンス力は大きな強みであり成長の原動力です。三和シャッター工業では、「施工技術コンテスト」の開催など施工・メンテナンス技術の向上に取り組んでいます。



施工技術コンテスト

お客様満足度の向上へ向けて

ODCでは、主要販売先であるディストリビュータ（代理店）との関係強化のため、ディストリビュータとの定期的な対話や情報交換を行っており、フィードバックされた内容は、新商品開発や製品品質の向上に反映させています。



ODC創立95周年を記念して開催されたリボンディストリビュータ大会には顧客やその家族約540名が参加

人材

目指す姿

三和グループでは、社員一人ひとりが価値創造の原動力であると捉え、それぞれの持つ能力や専門性を存分に発揮できる活気ある職場づくりを目指します。

成長へのつながり

誰もが充実感を持って生き生きと働くことのできる職場環境が、社内の活性化と個人および組織のパフォーマンスを最大化させ、そのことが企業の持続的成長を実現します。

1

2015年度
研修テーマ数

30テーマ

2

2015年度
グローバル採用者数

5名

3

2015年度
育休復職率

100%

成長戦略に基づいた人材育成制度 1

三和グループでは、成長戦略に基づいた人材育成制度を取り入れ、環境の変化に適応し、継続して成長し続けられるような研修などさまざまな取り組みを進めています。

階層に応じて内定者教育、新入社員研修、フォロー研修、新任管理者研修のほか、経営幹部を育成するための“三和経営塾”を開講。ほかにも営業力を高めるためのビジネスマナー研修、提案営業研修、新商品研修などを実施しています。

また、グループ間でのグローバルな研修にも注力しています。2015年度はODCでの1年間の海外研修のほか、アジアグループ会社従業員が来日し、三和シャッター等国内グループ会社の技術研修を受けるなど、積極的な人材交流を行っています（2015年度は10名）。



ODC海外研修

ダイバーシティの推進 2

グローバルレベルでの企業価値増大には多様な人材の活躍が不可欠との考えから、外国籍社員の採用などダイバーシティの取り組みを強化しています。また、雇用形態の多様化や人口減少などの環境変化に対応するため、シニア社員や女性社員など多様な人材がそれぞれの能力と可能性を十分に発揮できる基盤整備にも力を注いでいます。



さまざまな職場で活躍する外国籍社員

ワークライフバランスの向上 3

三和シャッター工業では、女性管理職の人数を今後5年間で2015年度比3倍にする目標を立て、女性社員のキャリアアップサポートや両立支援制度など環境の整備に取り組んでいます。また、長時間労働の撲滅が女性活躍には不可欠であるという観点からも、労働時間の管理や長時間労働の是正に努めています。



育児をしながら働く女性社員をバックアップ

環境、社会貢献への取り組み

目指す姿

三和グループは、地球環境や地域社会と共生しながら、事業活動を行い、良き企業市民として持続可能で豊かな社会の実現に貢献します。

成長へのつながり

事業活動を通じて社会問題、社会課題を解決することで、三和グループの社会的価値や企業価値を高め、持続的な成長に貢献します。

1

2015年度「三和環境の日」
クリーン活動参加社員

1,983名

2

2015年度 エコ・環境配慮
開発商品テーマ

15テーマ

3

2015年度 三和グループ
社会貢献倶楽部寄付金額

500万円

環境保全体制・取り組み 1

三和グループは、グループ環境方針に基づき、地球と共生しながら持続可能な社会の実現に貢献できるよう、継続的な環境の保全や改善、環境保全の意識向上に努めています。グループ各社では、ISO 14001やエコアクション21の認証を取得し、各環境計画に則った施策に取り組んでいます。



(左) 毎年6月10日は地域クリーン活動を実施。

(右) NFDトルムント工場ではLED電球への交換を実施。

防災商品・環境配慮商品の開発 2

三和グループでは、イノベティブな発想で、環境に配慮した商品、省エネに貢献する商品、自然エネルギーを活用した商品の企画開発に取り組んでいます。



スマホで開閉操作が可能なHEMS仕様の窓シャッター。

NFが開発した開閉機で、付属のソーラーパネルを使用することで電源供給が不要に。

社会貢献活動 3

三和グループ社会貢献倶楽部では、募った従業員の拠出金と同額を会社が上乗せして寄付活動を行っています。2016年3月末時点の寄付先団体数は計24団体、3,800万円を超える寄付を実施したほか、寄付先団体が主催するボランティア活動への参加も行っています。

競技活動支援

三和グループでは、自転車競技トラックレースの近谷涼選手を社員として採用し、競技活動を支援するほか、女子プロゴルファー青木瀬令奈選手と所属契約を締結し、スポーツを通じた認知度向上に努めています。



認定NPO法人「難病のこども支援全国ネットワーク」の宿泊施設に可動式間仕切「スライディングウォール」を寄贈しました。



近谷選手

地域との交わり

三和グループでは、社会と共に暮らし共に歩む良き企業市民として、積極的に地域コミュニティへの貢献を図っています。ODCでは、アメリカの少年少女が強い人格を持ち、自らの能力を最大限発揮できるよう支援する団体「ボーイズアンドガールズクラブオブアメリカ」に2012年から寄付を行っています。



「ボーイズアンドガールズクラブオブアメリカ」に参加した子どもたち。

コンプライアンス、リスクマネジメントへの取り組み

目指す姿

三和グループは、コンプライアンスとリスクマネジメントを推進することで“経営基盤の信用”を築き、企業価値を高めます。

成長へのつながり

コンプライアンスの徹底による透明性の高い経営の実践と適切なリスクマネジメントの実施により、ステークホルダーからの信頼を積み重ねることで、持続的な成長を実現します。

1

2015年度
コンプライアンス研修回数

18回

2

2015年度
コンプライアンス研修受講者数

561名

3

2015年度
リスクマネジメントテーマ

25テーマ

基本的な考え方

三和グループが企業価値を高め、成長・発展していくためには、コーポレート・ガバナンスを有効に機能させた透明性の高い経営が必要です。コンプライアンスはその基盤を支えるものであり、倫理・法令遵守のための社内体制の強化・徹底を図っていきます。

コンプライアンスの推進

誠実で透明な企業活動を進めるため、グループ内のコンプライアンス体制を支える「コンプライアンス行動規範」を制定しました。

各部門で実際に起こり得る事例と解説を盛り込んだ小冊子『コンプライアンス行動規範&ケースブック』をグループ全従業員に配布し、行動規範の周知徹底を図っています。



ケースブック

日常業務に活かす

コンプライアンス研修の実施 1 2

コンプライアンス意識を高め、法令違反・ルール違反を撲滅するために、グループ各社の主に管理職を対象とした研修を全国で実施しています。



コンプライアンス研修の様子

リスクマネジメントの基本的考え方 3

三和グループでは、事業活動に影響をおよぼすリスクを事前に発見し、対策を行うことでリスクの顕在化を未然に防止するリスクマネジメントに取り組んでいます。

具体的には、グループ各社および主要事業部が重要なリスクを抽出し、対策を立案、実行します。実施後に対策や結果の評価・指導を行い、必要に応じて追加対策を講じます。このPDCAサイクルをグループCSR推進会議と各社のCSR推進委員会が一体となって推進しています。

三和グループの事業継続計画 (BCP)

首都直下型地震が発生した場合のリスクを想定し三和グループの事業継続計画 (BCP) を策定しました。従業員の生命や会社の財産を守る防災対策を土台とし、事業の継続と早期復旧を目的としています。

■ 三和グループの事業継続計画 (BCP)

